



立教セカンドステージ大学 8期生クラブ活動

## 名画(美術)鑑賞友の会 活動報告書 (第5号)

「17世紀オランダの黄金時代の巨匠たち・フェルメールとレンブラント展」鑑賞会

2016-2-26 (火)

於：六本木森アートギャラリー

オランダ黄金時代と当時活躍した画家たちの紹介。フェルメール、レンブラントと並び、フランス・ハルス、ヤン・ステーン、ピーテル・デ・ホーホなど、黄金時代を彩った巨匠たちの作品によって、当時の文化と人々の生活が目の前によみがえります！

ニューヨーク・メトロポリタン美術館、ロンドン・ナショナル・ギャラリー、アムステルダム国立美術館を中心に個人蔵の作品も加え60点を一堂に展示。中でもメトロポリタン美術館の傑作、フェルメールの《水差しを持つ女》とレンブラントの《ベローナ》は日本初公開。



### 「水差しを持つ女」

ヨハネス・フェルメール作

1664-1665

ニューヨークメトロポリタン美術館所蔵



### 「ベローナ」

レンブラント・ファン・レイン作

1633

ニューヨークメトロポリタン美術館所蔵

### 《鑑賞記》

今回の展示の目玉は、光と影のフェルメール「水差しを持つ女」でした。この絵が4Kと言われる技法で、頭巾から髪の毛の透けて見えるところ、テーブルクロスが洗面器に映っているところ等、一つ一つを鮮明に見ることが出来る場所が設けられており、細やかに描かれているのを、改めてはっきり見ることが出来、フェルメールの技法にも改めて感嘆しました。

一方のレンブラントは陰影を得意とすると言われていますが、その代表と言われている作品の出品はなく残念。しかし、2人の巨匠以外の作品も素晴らしいものが多く、風景画 静物画 人物画と見どころがありました。当時のオランダの文化的水準の高さ、歴史や政治、生活の様子が絵と密接に関わっていることを改めて感じました。



### 今回の参加者は12名

鑑賞後、森アートギャラリー近くの公園にて記念撮影、その後恵比寿ガーデンパレスまで移動しての昼食会、個室でしたのでゆっくり感想について話し合い解散となりました。次回はイタリアのルネッサンスを代表する画家、サンドロ・ボッティチェリです。

(古市安美記)

名画(美術)鑑賞友の会主宰 渡邊敏幸 [tokyo.tomine-toshi@ezweb.ne.jp](mailto:tokyo.tomine-toshi@ezweb.ne.jp)